

第5回FLEECフォーラム プレセッション①

「人口減少地域等における児童家庭支援センターを活用した地域家庭支援」

一法人の枠を超え、市内社福法人を糾合し

子どもの貧困対策に取り組む

こども家庭支援センターあまぎやま

こども家庭支援センター あまぎやま
(福岡県大牟田市)

チームおおむた／支援は始縁



社会福祉法人 甘木山学園 理念

創設者の想いである「誠実」「奉仕」「感謝」の心をつなぎ次のことを理念とします

1. お互いをいつくしみ自分らしさを応援します
2. 豊かな人生の一助として癒やしと安らぎのあるおもてなしをいたします
3. 地域と共に発展するために力を尽くします



大牟田市
公式キャラクター
ジャー坊

- 社会福祉法人「甘木山学園」と同じ敷地内にある児童家庭支援センター。
- センター長は、要保護児童対策地域協議会の会長を担い、その他、教育委員会や社会福祉協議会などのさまざまな地域の関係機関と連携を深めている。
- 学校や地域と密着した支援相談活動を重視。義務教育の場合は、所属校長の承認を受ければ出席扱いとなり、また、センター内に特別支援学級を設置している。
- 関係機関と連携して、大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会を設置し、多岐にわたる活動を実践している。



- 大牟田市は、人口約108,000人。福岡県と熊本県の県境、九州のほぼ中央に位置している。明治時代以降、三池炭鉱と石炭化学コンビナートの隆盛とともに発展したが、平成9年に閉山した。平成27年7月「明治日本の産業革命遺産」の構成資産「三池炭鉱関連施設」として、世界文化遺産に登録された。日本のカルタ発祥の地でもある。
- こども家庭支援センターあまぎやまは、周辺の三市（大牟田市・柳川市・みやま市）を管轄。児童養護施設甘木山学園、甘木山乳児院とともに、子ども家庭支援の地域拠点としての役割を果たす。

センターの特徴

■ 不登校児の支援

- 不登校児の出席扱い
- 特別支援学級の設置



大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会

【社会福祉法人地域公益活動協議会組織図】



大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会 定期総会の様子

各法人の職員一人あたり、年間**1,000**円
を徴収し、活動資金としている。

大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会

① ゴミ屋敷と呼ばれる家の清掃活動



大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会

②生活困窮者への食料・日用品等支援

生活困窮者で、次の年金支給日や生保受給日までの食事のつなぎとして、食料（レトルト食品、インスタント食品や配食弁当）及び日用品等を提供している。

また、ニーズによっては、紙オムツやミルク等のベビー用品等も提供している。

年度	食料支援数	日用品等支援数
平成29年度	4,024食	13件
平成30年度	14,434食	30件
令和元年度	14,939食	54件
令和2年度	6,930食	14件
令和3年度	9,430食	21件



大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会

⑧学校休校中の児童・生徒への食料提供

大牟田市要保護児童対策地域協議会より依頼を受け、スクールソーシャルワーカーによるスクリーニングにて抽出された「臨時休校中に食事に困るかつ、見守りが必要な児童・生徒」に対して食料提供を行っていた。

新型コロナウイルス対策による臨時休校中
に見守りが必要な子どもへの食料提供支給

令和2年3月9日～6月2日までの**45**日間

(延 **2,213** 食)

【食料支援依頼から活動までの経過】

日程 (令和2年)	活動内容及び経過
3月2日	小・中学校臨時休校開始
3月6日	大牟田市要保護児童対策地域協議会より要請 「臨時休校中、見守りが必要な児童への食料支援」
3月9日～ 24日	第1期食料支援 (11日間) 延 426 食
3月25日～ 4月3日	春休み中、特に見守りが必要な家庭へ支援 延 57 食
4月10日～ 5月1日	第2期食料支援 (15日間) 延 782 食
5月7日～ 6月2日	第3期食料支援 (19日間) 延 1,005 食
6月3日	学校給食開始
6月8日	小学1年生学校給食開始
6月12日	臨時休校中の食糧支援等に伴う総括会議

大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会

⑨新型コロナウイルス感染症自宅療養者への 食料品・生活物資提供業務

令和3年10月1日より、「**大牟田市新型コロナウイルス感染症自宅療養者等生活物資提供業務**」の委託契約を締結した。

本事業を通じて、市内の様々な民間事業所（九州車輛・ニコニコのり・済生会大牟田病院・甘木山学園等）からお菓子・食料品や飲料水等の寄贈を受けた。

大牟田市から指定された自宅療養者への食料・生活用品パッケージ以外にも、ベビー用品（紙パンツ・粉ミルク他）や子ども用お菓子、アレルギー食品などについては、大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会が負担し、提供している。

令和3年10月から令和4年8月まで、

2,200世帯に、**6,364**コ配達した。



先ほどは食料・日用品支援物資を玄関先まで運んでいただき、ありがとうございました！

食料が少なく、細々と食べていたのでとても助かりました。子ども達もお菓子に大喜びでこんなにたくさんのお菓子で幸せ～!!と言っていました。

食料があることで、気持ちに安心感がうまれました。

本当にありがとうございました。

法人内人事・心理支援チーム

法人内に、児童養護施設、乳児院、児童家庭支援センターがあり、それぞれに心理担当職員（以下、「CP」）が配置されている。同じ敷地内にある強みを活かして、心理支援チームとして連携を図っている。

例えば、乳児院から児童養護施設に措置変更された子どもについては、そのまま乳児院のCPが担当したり、子どもの状況や相性等を鑑みながら、施設の垣根を超えて臨機応変に支援にあたっている。また、近隣の大学教授にスーパーバイザーとして月に5回ほど入ってもらっている。

社会的養護におけるCPは、一人職であることが多く、孤立することが多く見られるが、このようなシステムを構築することによって、気軽に相談ができたたり、お互いが支え合いながら、人材の育成につながっている。

アウトリーチ

関係機関との連携によるアウトリーチ

大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会をはじめとして、まずはお互いが顔を合わせ、現場に出向き、実際に見て、触れることでの確かなアセスメントが行われていく。そのアウトリーチが、利用者にとって適切なより良い支援につながっていく。まずは動き、動きながら考え、状況に応じて改善を図っていく。

連携

人材交流によるわかり合える関係性

法人として、積極的に人事交流を行っている。職員を大牟田市へソーシャルワーカーとして派遣したり、CPを近隣市町村のスクールカウンセラーとして派遣している。これにより、行政機関や教育機関は専門職の安定的確保が可能となる。あわせて法人との信頼関係が構築される。また、派遣された職員も、その経験を通して、多くの学びになり、長期的な人材強化につながっていく。お互いにとって、Win-Winの関係である。

世代を超えた 地域包括支援センター

家族への支援として捉えると

領域を超えた支援が不可欠

介護老人保健施設の相談業務と協働して
地域住民だれもがそこにいけば安心を得られる



社会福祉法人 甘木山学園 理念

創設者の想いである「誠実」「奉仕」「感謝」の心をつなぎ次のことを理念とします

1. お互いをいつくしみ自分らしさを応援します
2. 豊かな人生の一助として癒やしと安らぎのあるおもてなしをいたします
3. 地域と共に発展するために力を尽くします

「やりたい」の集結

「やらなければならない」ではなく

「やりたい」「楽しい」「やりがい」



「早く行きたければ一人で行け、遠くに行きたければみんなで行け」